

介護専門職の総合情報誌

おはよう21



特集

いまさら聞けない

“なぜ、そうするの？”がわかるQ&A

食事・入浴・排泄ケア



新連載スタート

多視点でとらえる
認知症の人の症状・サイン

「聞こえにくい利用者」への
補聴器装用
サポート・ガイド

わかって
いるつもり
に
なっていたかも



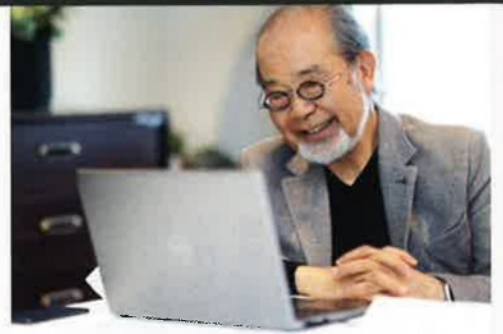
現場の疑問をすっきり整理
介護保険・社会保障制度情報

テーマ別
職場内研修はここを押さえる

今日から始める“根拠のあるケア”
杉本浩司の“自立支援介護”講座



マネジメント特集
リーダーのための
メンタルマネジメント講座
② ストレスとの付き合い方



おはようクローズアップ対談 鎌田實と語る 介護の“魅力”

コロナ禍は大きな影響を介護の現場にもたらしました。しかし、そのなかでも、利用者の生活を支えるための取り組みが行われています。各地の施設と鎌田先生をつないで、現場のこだわりや生の声を聞いていきます。

社会福祉法人賛育会
豊野事業所

職員が一丸となって
深刻な水害からの復興を実現

宮澤明住さん 賛育会クリニック院長、介護医療院とよの・介護老人保健施設ゆたかの施設長

森佐知子さん 賛育会クリニック・介護医療院とよの・介護老人保健施設ゆたかの事務長

堀家世司さん 特別養護老人ホーム豊野清風園施設長

鈴木伸良さん 豊野事業所事務センター係長

台風19号で施設が浸水

鎌田 2019年に各地を襲った台風19号の被害で、賛育会の豊野事業所（長野市豊野町）は全施設の1階が水没。利用者は全員3階に避難して無事だった。



被災時のようす

たけれど、建物は甚大な被害を受けました。僕のいる諏訪中央病院からもこの地域へ支援に入ったのですが、職員の皆さんが利用者のために頑張っている姿はよく覚えています。大変苦しい状況のなかでもチームワークはしっかりとっていたし、自分たちの施設だけでなく、地域全体の復興のために泥かきなどをして奮闘していた。素晴らしいグループだと感じました。

宮澤 地域全体が復興しなければ、施設の復興ありませんから。もともと地域での活動に力を入れていた背景もあったので、私たちにとっては自然なことでした。

鎌田 いま思い返して、どんなことが

右から堀家さん、森さん、宮澤さん、鈴木さん



ウチのこだわり
とよの幸腹食堂



毎月1回、豊野地域の住民が誰でも来られる居心地のいい場所と美味しい食事を提供する目的で「とよの幸腹食堂」を始めました。

印象に残っていますか。

森 私の実家がある小布施市はまったく被災していませんので、実家から豊野に来るたびに別世界で、これは何か悪い夢を見ているのではないかと感じたことが忘れられません。ただ幸い、早い段階で事業所から「事業所と職員の雇用は絶対を守ります」というメッセージをいただいたので希望がもてました。利用者さんをほかの施設に移すときでも、必ず豊野の施設を再開するからそのときは帰ってきてね、という気持ちで送り出せました。

鎌田 被害総額は10億円だったとのこと、今後経営を続けていけるのかという心配はありませんでしたか。

鈴木 現場から心配の声が上がったのは事実ですが、法人本部が職員を集めた集会で、絶対に豊野事業所を元の状

全員が希望を失わず、被災から復旧までを乗り越える

態に戻しますと宣言してくれましたから。泥かきをするときも、「地域の復興なくして賛育会の復興なし」の掛け声のもと、こうやって頑張っていけば必ず復興するんだという希望を持ちながら働いていたと思います。

堀家 施設の復旧、再開までの間、職員の一部は他の賛育会の施設や利用者の受け入れ施設に向出したのですが、そのなかでも離職した人がほげいなかったのがありがたかったです。

鎌田 それはすごいね。堀家 豊野事業所に残った職員も辞めずに地域活動をしてくれたので、助かりました。

鎌田 日本は災害の多い国だから、豊野事業所が体験したようなことは、全国どこでも起こりうると思うのだけど、今回の経験を通して学んだことはありますか。

宮澤 災害にあっても施設運営を持続できる体制に普段からしておかなくてはならないと、痛切に感じました。

普段、水や食料が1階にあつたのでそれを上の階に上げるのが大変でしたし、電子カルテのサーバーも1階にあつたので、被害を受けてしまいました。水害のおそれがあるなら、大事なも

のは2階より上に設置するなど、普段からもしもの時に備えて施設を運営する必要があると感じました。

鎌田 なるほどね。万が一災害が起ったときのことを本気で考えることが大事なことだね。

宮澤 そうですね。水害だけではなく、地震や火災もいつ起こるかわかりませ

んから、いろいろなケースを想定して計画を作っておくことが大事だと思います。

離職率の低さ

鎌田 普段の施設運営のことも聞きたいと思います。この事業所にはクリニックも併設されているのですか。つまり利用者は自宅で最期を迎えたいと思えばそうできるし、家族が疲れてくれば施設に入れてもらったり、利用者や本人が柔軟に選択できるのではないかなと思うのですが、どうですか。

宮澤 そうですね。クリニックでは地

ウチのこだわり
地域支援センター



事業所では10の介護保険事業と医療事業を運営しており、利用者のニーズにあった切れ目のないサービス提供を目指し連携しています。中でも在宅系サービスは一つの部署として統括し、より連携力を入れているところです。

域の皆さんのかかりつけ医として、外来のほか訪問診療と訪問看護も行っていきますし、在宅での看取りにも対応しています。ほかにも、特養や老健、介護医療院といういろんなサービスを提携できるのが事業所の強みだと思っています。

鎌田 素晴らしいね。さらに、法人全体でも、この事業所でも離職率が低いとのことですが、どうしてだと思いますか。

堀家 第一に労働時間ですね。賛育会では1日の労働時間は7・5時間、年間の休日数は121日あります。そのほかに正職員と、非常勤で週32時間以上働いている職員には4日間の夏休みがあります。さらに年5日間の有給休暇もありますので、年間で130日近く、およそ3日に1日は休みというこ

とになります。夜勤も月4、5回というところで、労働環境がよいのだと思います。

鎌田 若手係長の鈴木さんから見た賛育会のよさは何ですか。

鈴木 まずは法人の大きさと、医療保育、福祉と幅広い活動をしていて歴史もあるという安心感。加えて研修や処遇も含めて、法人が職員を大切にしてくれていると感じられることだと思います。資格取得や勉強をバックアップしてくれるのも嬉しいですね。

鎌田 なるほど。では、人材は募集すれば、それほど苦労なく集まりますか。

森 最近はそのとも言え切れなくなってきました。近隣に介護の専門学校が3校あつたのですが、なかなか生徒が集まらないようで、1校は閉鎖してしまつて、1校は縮小しています。今年度はおかげさまで6名採用できましたが、今後2、3年のうちに厳しくなっていくような気がします。

ウチのこだわり
施設サービスの充実

施設介護では、持ち上げない介護を実践し、リフター等の福祉用具を活用しながら安心安全なケアを行っています。また、特養と介護医療院が連携し、その方の状況に応じた施設が選択ができるような対応も行っています。

働いてもらったり、年齢に応じた仕事の割り振りをしうまく仕事を続けてもらっています。

職員の負担を軽減

鎌田 ノーリフトにも取り組んでいるのですよね。

鈴木 2011年と比較的早い段階で導入しました。当初は手で抱えたほうが早いというスタッフの意見が多かったのですが、導入後に身体の負担感が減っていることが実感できてからは、むしろ自力で抱えることに違和感をもつようになりました。

鎌田 10年以上たつて、ノーリフトに関する職員の共通認識ができましたか。

鈴木 はい。介護職員が連携して事例研究を発表して、共通認識をもち続け



利用者と職員を
大切にする法人だからこそ、
速やかな復興が成し遂げられたんだね

ウチのこだわり コロナ禍での対応



管理職を中心に毎朝のミーティングで感染状況や各施設の状況確認等の共有を行い、組織が一体となって、コロナに対応しています。施設内の感染対策も徹底し、クリニックを中心にコロナワクチン接種を推進しています。

られるように努力しています。

鎌田 せっかく学んだ介護技術を駆使したい気持ちもあると思うんだけど、長い目で考えると、道具を使って自分の腰を守りながら長く働き続けるほうが、利用者さんと過ごす時間も大切にできるよね。

鈴木 そうですね。

鎌田 排泄ケアについてはどうですか。
鈴木 私が入職したときは1日に何回もおむつを変えるのが当たり前の介護

でしたが、今はご利用者と介護職員双方の負担を減らすという考えのもと、おむつ交換の回数を減らしながら、皮膚もきちんと保護する。そうして病床から起き上がる時間を増やそうとして、頑張っています。

鎌田 なるほど。おむつも進歩しているから、うまく利用するとよいですね。ケアに当たって心がけていることはほかにありますか。

森 「おばあちゃん、こんな施設に預けてごめんなさいね」とご家族が言っているのを聞いたことがあります。そんな家族の気持ちを受け止めて、だからこそ私たち職員は本当の家族のような気持ちで接するように心がけていきたいです。その結果として、ここに預けてよかったですご家族が思えるようになればいいなと思っています。

鎌田 そうだね。本人が一人称だとすると、家族が二人称、介護のプロは三人称となるのが普通かもしれないけど、

森さんのような人たちは、2・5人称の存在として、家族に近い立場で接しようとしている。だからこそ施設にいい雰囲気の流れているのだと思います。最後に経営面での抱負も聞かせてください。

宮澤 しっかりと収支を確保していくという課題にしっかりと取り組みたいです。

鎌田 今後はなんとかなりそうですね。
堀家 被災後2年は収支が悪かったのですが、最近は利用者さんも戻ってきましたので、計画通りに今年に進められる見込みです。

鎌田 あれだけの災害にあっても復興できるのは、皆さんの頑張りがあったこそだね。今後も、同じ長野県の仲間として注目しています。ありがとうございました。



社会福祉法人賛育会
豊野事業所

開設：1970年1月（特別養護老人ホーム豊野清風園）
所在地：長野県長野市豊野町豊野659-1
施設概要：診療所、介護医療院（60名）、介護老人保健施設（96名：短期入所療養介護含む）、通所リハビリテーション（25名）、訪問リハビリテーション、訪問看護、特別養護老人ホーム（90名：うち短期入所生活介護16名）、通所介護（35名）、訪問介護、居宅介護支援事業所、軽費老人ホーム（18名）